

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2019.6.15 No.352 東京・羽村平和委員会発行



横田基地所属輸送機 長野県佐久地方で低空飛行 目撃者相次ぐ

2機 極めて低空を飛行 佐久地方 目撃情報相次ぐ

(信毎Web 5月31日)

30日午後5時半ごろ、佐久地方で航空機2機が極めて低い高度で飛行するのが目撃され、佐久市役所などに「恐怖を感じた」などと問い合わせが相次いだ。佐久市のほか、南佐久郡小海町、佐久穂町、川上村、南相木村でも目撃され、南から北へ飛んだ後、再び南へ戻ってきたとの情報もある。

県危機管理防災課は佐久市から連絡を受け、自衛隊長野地方協力本部（長野市）と防衛省北関東防衛局（さいたま市）に照会。いずれも「本日中の回答は困難」との連絡があった。同本部によると、午後5時半ごろに佐久市上空を飛んだ自衛隊機はない。

市役所近くでは柳田清二市長が屋外で目撃。「航空機事故だと思った。尋常ではない」とし、国側に「きちんと説明してほしい」と求めた。

航空機は灰色で両翼にプロペラが付いていた。米軍横田基地（東京）で米軍機を監視する市民団体羽村平和委員会によると、機影は米軍の輸送機に酷似しているという。

佐久地方ではこれまでも、米軍のジェット機とみられる機影が目撃されたり、ごう音が発生したりしている。ただ、今回は従来とは比較にならないほど低空の飛行だったとの情報が市民から寄せられた。市役所には午後9時現在、「恐怖を感じるほどにうるさかった」などの問い合わせが29件あった。



低空飛行する航空機=30日午後5時半ごろ、佐久市中込（記者提供）

6月3日に米軍は、佐久地方を飛行したのは横田基地の米軍機であると認めました。6月4日の信濃毎日新聞に掲載されました。

横田基地に新たな指揮所、航空宇宙作戦センターを検討

横田基地に新たな指揮所検討=対中念頭、在日米空軍に「統制権」 (時事ドットコムニュース5A260)

【ワシントン時事】米空軍が横田基地に作戦計画の策定や実行を担う新たな指揮所「航空宇宙作戦センター（AOC）」の設置を検討していることが19日、複数の米軍筋への取材で分かった。紛争時に一定の条件下で在日米空軍

（第5空軍）に「作戦統制権」が与えられた際、AOCが司令官の決断を補佐する構想。実現すれば在日米空軍の作戦遂行能力が強化されるとともに、より密接な自衛隊との連携も可能になる。



5月26日、福生平和委員会が設立

これまで羽村平和委員会で平和新聞を配達したり集金をしていましたが、福生市在住の方々が福生平和委員会を設立しました。福生で頑張っていくということで、会員も2倍以上増えました。

6月1日と2日は、日本平和委員会の第69回総会が多摩市の会場で開かれ、福生平和委員会として2人が参加、羽村平和委員会も写真は2人ですが3人参加しました。

F35、平衡感覚失い墜落＝「機体正常」 飛行再開へー防衛省が原因推定

(時事ドットコムニュース 6月12日)

航空自衛隊三沢基地の最新鋭ステルス戦闘機F35Aの墜落事故で、防衛省は10日、操縦者が平衡感覚を失う「空間識失調」により墜落したとする推定原因を発表した。機体トラブルなどはなかったと推定し、同省は教育など対策を徹底した上で同型機の飛行を再開する。

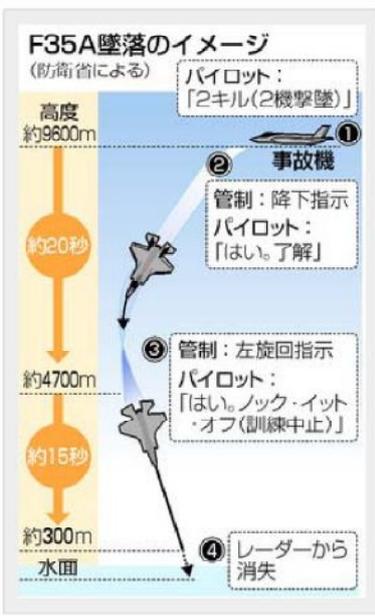
【関連情報】F35戦闘機が墜落

同省によると、F35の情報共有システムや地上レーダーから、墜落機の位置や高度を特定。航跡や速度を分析した結果、操縦者が空間識失調に陥った可能性が高いと判断した。事故機の交信内容や、国内配備された残る12機の点検結果からも機体に問題は確認されず、正常に作動していたと推定した。

事故は4月9日夜に発生。午後7時25分ごろ、高度約9600メートルで訓練中だった墜落機から「2キル(2機撃墜)」と交信があり、近づく米軍機を避けるため約1分後に管制が降下を指示した。同機は追加指示された左旋回をしながら約20秒後に約4700メートルまで急降下し、「はい、ロック・イット・オフ(訓練中止)」と交信。その後も急降下を続け、約15秒で水面から約300メートルの高度に達し、レーダーから消えた。

最後の交信の声は落ち着いており、異常を知らせる様子はなく、次の訓練のために発したとみられる。負担の大きい左旋回直後の交信で、重力により意識喪失した可能性は極めて低いという。

機体に異常があった場合、降下時に減速する可能性が高いが、同機は通常ではあり得ない音速を超えた速度で急降下していた。空間識失調状態の操縦者が機体姿勢を錯覚し、機首を下げた急降下姿勢のまま、ほぼ垂直に墜落したとみられる。



住宅地に銃口、繰り返す

横田基地 オスプレイ

参院決算委

吉良氏 中止求める



銃口を出して飛行する CV22 オスプレイ＝18年6月29日、羽村平和委員会提供



参院決算委員会で質問する吉良氏
5月20日、しんぶん赤旗提供

日本共産党の吉良よし子参院議員(東京選挙区選出)は5月20日の参院決算委員会で、米軍横田基地の特殊作戦機CV22オスプレイが、機関銃の銃口を下に向けて住宅地

上空の飛行を繰り返している写真を示し、こうした訓練の中止を求めました。

横田基地を監視する羽村平和委員会の高橋美枝子さんは、CV22の訓練

少なくとも18回

羽村平和委員会が撮影してきたCV22の写真を検証すると、横田基地で少なくとも18回にわたって、銃口を出して飛ばす姿が撮影されています。最近でも、5月7日に銃口を出していたことが確認されています。

吉良氏は決算委員会で、「実弾や葉きょうが落ちてきたら」など、さ

与党議員も、ひどい

さまざまな不安が住民から上がっている」として、銃口を出すのをたまたみやめるよう米軍に求めるべきだと強調しました。吉良氏の質問では、銃口を出した訓練がどういうものなのか、防衛省が把握できていないことも浮き彫りになりました。吉良氏は、CV22が横田基地でどういった訓練をするのか米軍が説明しているのか質問。防衛省は離着陸、人員降下、物投下、編隊飛行、夜間飛行の5つをあげました。

吉良氏が、「銃口を下に向けて飛行するのは、5つの訓練に入らないの

飛ぶなんて、ひどい」と

しきりに話していたとい

います。高橋さんは、「与党の議員でも、ひどいと思うことなのに、防衛省は米軍に中止を求めようともしない。こうした訓練は異常だと感じる、常識的な考えすら失っている」と批判。「横田基地は、飛行機の発着回数が増え、15年で最大の数になるなど、強化が進んでいます。CV22が日本中をわが物顔で飛んでいるなか、銃口を下に向けて飛行する訓練の問題を多くの人に考えてほしい」と話します。